

中齋塾 東京フォーラム
平成24年 第4回講話

平成24年5月12日
於 湯島聖堂

『恒例の質問』—私の楽しみ—

○ありがとうございます、ありがとうございますのが、今月続いている人？

私はこのような質問をするのが楽しいのです。何故かと申しますと、サッと手が挙がる人、ゆっくり手が挙がる人、首をかしげながら手を挙げる人。心の中が見えてくる様に感じますが、皆さまが毎日良い日を過されるように思えるので楽しいです。

○今月に入ってから嘘をつかなかった人

沢山おられますね、嘘をつかない日々は気持ちの良いものです。

○今月に入ってから、良い日が続いている人？

なかなか良い日が続くというのは難しいですね。では、良い日では無いというのは、どういう事でしょうか。

良い日では無かったというと、物理的に何か困ったことか、精神的な充実感がなかったことか、はたまた精神的な空虚感なのか。良い日では無かったと思った人は、ちょっと胸に手をおいて考えて見て下さい。

自分で嘘をつかなかった、良い日だったと思った時に、心の中でスッと手を挙げられない時は、精神的なものか、肉体的なものかと掘り下げて考えてみて下さい。

健康法について

55歳を過ぎると自分で気が付かなくても体力が落ちてきます。65歳になると体力はつるべ落としの感じになります。ちなみに参与はどうでしたか？

「感じない、まだまだいけます」(参与)

「嘘でしょう」(塾長)

「…冗談です」(参与)

参与が中国に行かれる時は、強行軍で動いているので、余分に一日ぐらい身体を休ませる日を取りだしたと言われたのが、確かその位の年齢だったと思うのですが…

「余分に一泊するようになりました」(参与)

私も58歳の時から意識的に宿泊するようになりました。出先で動き回っていると、けっこうエネルギーを使いますので、夜は疲れます。以前は家に帰っていたのですが、この頃は夜暗くなったら、近くのホテルに宿泊するようにしています。そうすると身体が楽になりました。

以前、木内信胤先生に講演をお願いした時に、先生は「老人の体はすぐ壊れるようになってから地方には出掛けない。地方に出掛けると、そのままあの世に行くかもしれないから、なるべく外には行きたくないし、枕を変えたくない」とおっしゃっていました。確か80代後半の頃だったと思います。けっこうお元気でしたけれど、泊まりがけで出掛けるのは止められていました。ちなみに顧問の石川忠久先生は、泊まりがけで全国に動いておられます湯島聖堂で講義をする時にも奥様が端の方に座っておられる。石川忠久先生は奥様と一緒に出掛けるような習慣をつけています。御本人の具合が悪くなったら奥様が見られるのだなと思いました。全国的に動かれている時は、時間を調節しながらゆっくりした動きで動いておられますけど、具合が悪くなったらすかさず面倒を見てくれる人が常についているのが良いのでしょう。

木内顧問は、まだまだ精力的に動いておられるし、腕立て伏せも沢山されるそうです。お元気だと思うのですが、奥様に伺いましたら、家に帰ると疲れ切って何もしないで、すぐ寝るそうです。御本人もだいたい焦り出してきている様で、自分の余命と自分が手掛けている仕事とを見比べながら、なるべく自分が生きている内に日本の国がおかしな方向に曲がっているものに対して少しストップを掛けたい、良い方向に向けたいとそのような考えで動いておられるようです。寿命が少したりないと思っておられるように感じます。

自分の健康法を、自分なりにつくって毎日続けると良いと思います…という事を含めて今、健康法を実践している人？

今日の論語『郷党第十』

当時の礼儀作法についてや孔子の食生活（好き嫌い）について、色々と書いています。

くんし かんしゅう もつ かざ こうし もつ せつぷく な しょ あた ひとえ ちげき かなら
【六】君子は紺紵を以て飾らず。紅紫は以て褻服と為さず。暑に当りては袷の絺綌す。必ず
ひょう これ いた し い とうきゆう そ い けいしゆう じょうい せつきゆう なが みぎ だちと
表して之を出す。綌衣には羔裘、素衣には麋裘、黄衣には狐裘。褻裘は長くし、右の袂を
みじか かなら しんい だげいつしんゆうばん こかく あつ もつ お のぞ お ところ な
短くす。必ず寝衣有り。長一身有半。狐貉の厚き、以て居る。喪を去きては佩びざる所無し。
いしゅう あら かなら これ そつ こうきゆうげんかん もつ ちゆう かなら ちゆうふく
帷裳に非ざれば、必ず之を殺ぐ。羔裘玄冠しては、以て帛せず。吉月には必ず朝服して
ちゆう 朝す。

君主の普段着の襟のふちは飾らない。普段着として赤紫色は着ない。暑い時には、葛を使って拵えた布の単衣を着る。上着は外に出すような慣習がある。黒色の上着で、黒い色の羊皮の上着を使う、白い小鹿の毛皮を使う、黄色い狐の毛皮をつける。「褻裘」は普段着です。家で普段着を身につける時の毛皮は長くし、動く時は邪魔にならないように右の袂を短くする。必ずパジャマを着て寝ます。その長さは身長の一俵半と決められています。狐や貉の毛皮は暖かいので家にいる時はそのような物を使う。喪中の時は身を飾るものははずす。喪が

明けたら元通り身につける。衣装は袴のようなもの。広がっているから、下の方は裁ち落とす。羔裘というのは吉事に使われ、黒子羊の毛皮を身に纏って赤黒い冠をかぶるが、弔間に出掛けてはいけない。毎月一日には必ず礼服を着て、朝廷に出掛ける。

【七】さい齊するときは必ずかなら明衣めいいあ有り、ぬの布をもつてす。齊するときは必ずさい食かならをしよく変じ、へん居るには必ずお坐かならを遷す。

神をまつる時には、必ず沐浴し清潔な浴衣みたいなものを着る。布は麻で織った織物を使う。神をおまつりする時には、必ず酒や生臭い物は食べないし、ふだん座っている場所ではなく、異なる場所に座を移すものです。

【八】し食はせい精をいと厭かいわず。脛はさい細をいと厭くらず。食のし饒いしてあい餵し、魚のうお餒たいしてにく肉のやぶ敗れたるはくら食くらわず。色いろのあ悪たしきはくら食くらわず。臭きりのただ悪くらしきはくら食くらわず。臭そのそ悪じしきはくら食くらわず。飪じをくら失いえるはくら食くらわず。時ときならくらざるはくら食くらわず。割わりのり正ちしかくらざるはくら食くらわず。其そののお醬じょうをくら得えざるはくら食くらわず。肉にく多おほしとくら雖くらも、食くら氣きにくら勝かたしめず。惟ただ酒さけはくら量りやう無なし、乱らんにくら及およばず。古こ酒しゅ市し脯ほはくら食くらわず。薑しょうをくら撒ませずしてくら食くらうも、多おほくはくら食くらわず。公こうにくら祭まつるときはくら肉にくをくら宿まつせず。祭まつのくら肉にくはくら三さん日にちをくら出いささず、三さん日にちをくら出いづればくら之これをくら食くらわず。食くらうにくら語かたらず。寝くらぬるにくら言かたわず。疏そ食じき 菜さい羹かう 瓜かとくら雖くらも祭まつるときは必ずくら齊さい如ごとたり。

一孔子の食習慣一

これからのお話は、孔子の食習慣を語っていますので皆様に役立つかと思えます。

孔子は、ご飯は精米している物を好み、脛はなますで、細かく刻んだものを好む。ご飯がすえて味が変わったものや、魚が傷んだり肉が腐ったりしものは食べなかった。現代もそうですね。

変色したのもも食べなかったし、臭いがきついものも食べなかった。料理の仕方が悪いものも食べなかった。これは奥さん泣かせでしょうか。

旬でないものは食べなかった。切り方が悪いのも食べない。だし汁が悪いのも食べない。みんな食べないと云う事ばかりですが、それにしても後世残っている孔子像はでっぴりと体格が良く、ここに書いてあるものとイメージが合いませんが…。

肉をたくさん食べた時でも、ご飯の量をより多く食べる。必ずご飯の量を多くして肉は少なくしている。ただ孔子は、酒はいくらでも飲み、乱れることはなかった。市場で買った正体のわからない肉や酒は食べなかった。孔子は必ず自家製のものを食べたり飲んだりしていた。薑は生姜です。生姜を口直しで食べる時には、それなりに食べて、ただ捨てたりはしていなかったが、多くは食べなかった。君主から祭祀で肉の供物がお下がりや下げ渡された時には、その日の内に君主から戴いた供物は食べた。祭りの肉は三日過ぎたら食べなかった。こ

こは食事の仕方、楽しく語らいながら食べる文化と、食べる時には一所懸命食べるのが良いという、はからずも東洋文化と西洋文化が比較できると思います。どちらか良いかはご本人の考え次第です。

寝る時には、お喋りをしない。粗末なご飯、汁、瓜そのようなものが出た場合でも、最初に収穫したものをお供物で供え、供える時には厳粛な態度で慎みながら供える。

論語の学び方

論語を読む時には、御自分のイメージを大事にして下さい。自分のイメージと書いてあるものが違う場合は、何故だと思って下さい。

何故と思う気持ちが湧きますと、その何故に対して追及しようとしみます。それは学問の入口ですので、追及する時には、たくさん本を読んで下さい。

論語でポピュラーなのは、貝塚茂樹先生、宇野哲人先生、金谷先生というところでしょうか。そこらへんで調べて、ちょっとイメージが違う、また色々な何故にあたりますと、少し違う解釈のものを調べたくなります。ちょっと違ったものと宮崎先生、穂積先生の本でしょうか。どんどん追及してゆくと、もっと詳しく知りたくなります。そうすると佐藤一斎や荻生徂徠など歴史上の人物が調べたものや特定の方、例えば渋沢栄一・安岡正篤などの先生方が書いたものにあたります。それでも、まだ足りないと感じますと、原典の中国ではどうだったかと思ひあたります。王陽明や朱子はどうかであったかと、どんどん掘り下げていくことでしょう。

ただ、自分が何故だという疑問を持った時には調べる順番があります。いきなり手順を踏まず、ポンと飛びますと何故だという追及が浅いものになります。

その手順の第一段階は、40～50年前に教わった先生や書かれた書物を調べる時に使う。

第二は、日本の歴史上の人達のもを調べて使う。

第三段階は、原点にいる人達や中国の人々、王陽明や朱子などに入り、調べて使うようになります。それらを踏まえて、自分の意見を出してゆくという流れが良いでしょう。

私が学生の頃、論語は何とつまらなく、面白くないものかと思っていました。卒業して、石川梅次郎先生のお宅にお邪魔して先生と雑談している内に、段々と楽しくなってきました。楽しくなってくる時には、たぶん孔子はこういう人、言葉遣い、態度だったろうかと絵でイメージが浮かんできました。

映画を見るような感じで見えてくると、論語の時間が楽しくなります。以前の私は、論語は面倒で大変だと思っていましたが、今では楽しいというものになりました。その中で良い科白をみつけるとまた楽しい。

論語は自分で何か良いなと思うものが一つでもあれば、文句無しです。その言葉を深く掘り下げて、これだという手ごたえを感じ終えたら、また他のものに手をつけると良いでしょう。手をつける時に論語が楽しくなるのが良いですね。

論語は同じ言葉でも十年刻みで見ると、まるっきり印象が変わります。最初はつまらないと思ったものが、歳を経るに従って味わいが変わってきて、受け止め方が変わってきます。必ずイメージは変わりますので、亡くなる寸前まで読み続けるのがと良いと思います。どうぞ論語とはそのような考え方で付き合い下さい。

氣をつけておきたいルール

学者は論語の説明をする時に、これは誰が説明をしているのか、出典はどこかを必ず明らかにします。それがルールです。

自分が話したものは、皆さん誰でも知っているから、いちいち言わなくて良いかと思って軽く片付けないで下さい。本や論文を書いたりする時または講演などでは、出典を明らかにするという癖をつけられると良いでしょう。あたかも自分が考えた具合で説明をしてしまいますと、世の中から弾かれ外されてしまいます。しっぺ返しは後で来ます。この間、博士号を取った会員さんの話ですが、「出典を明らかにしないで、孫引きをしたもので論文を書く」と叩かれます」とつくづく言っていました。

私が危機感を持っているのは、中斎塾フォーラムでお話をする時には、出典をいつも明らかにするように努力をしていますが、私の話を聞かれた人がたまたま出典を明らかにしないで他所でそのままお話をしてしまう、または文章を書かれる。そうなりますと、「何だ、中斎塾というのは出典を明らかにしない、ルールを疎かにしている集まりの団体か」と周りで受け取られてしまいます。そのような事態にならないよう常に出典は明らかにしておきましょう。

『基本哲学』からみる一時事評論一

基本的なものの考え方、「足るを知る」知足がベースですので基本哲学は足るを知るという事だと何かにつけてお考え下さい。そうすると知識・見識・胆識という言葉が繋がって出てきます。それから本質・大局・歴史という判断基準。

これらは何度も折に触れて述べますので、聞けば自然と頭に入るようになると思います。

・新聞からみえてくる雑知識

昨日と今日の朝日・読売新聞で、オヤッと思い気づいたものがいくつかあります。

震災関連死が344人、これは福島原発の周辺8町村で直接の死亡者が214人ですが、医者の手が及ばず、亡くなった人や震災関連で亡くなった人の数が逆転したという見出しでした。

他にも、よく読んでみると孤立死が多いので、厚生省が個人情報保護法を適用しないで、水道光熱費の料金が滞納している人達については情報を提供して、孤立死をさせないように

通知したという記事がありました。ここら辺で感じた事は、厚生労働省は通知で出すのならもっと早く出せないものかと云う事でした。

家電量販店のコジマとビッグカメラが提携しました。コジマといえばヤマダと一緒に伸びていたというイメージがありましたが、途中からヤマダが急激に伸びました。牛井も吉野家がずっと大きいと思っていたら、いつの間にか松屋が伸びてきました。それは何を意味しているのか、考えてみようではありませんか。

トップに立つ人のものの考え次第で、会社というのは大きくもなるし、小さくもなる。客観的に眺めていけば、伸びてゆく会社と伸びない会社は、やはりそのトップの人の姿勢による、実行力によるものだと云う風に感じました。

民間の動きで、ビッグカメラとコジマの提携の動きは当然だと感じます。おかしいのは東電です。東電の場合は、よく臆面もなくいけしゃあしゃと値上げは権利だと言い、経済産業省に10%プラスアルファを要請している。同時に郵便貯金で浮いているお金771億円を国が目をつけて取ろうとしているのが607億円。

あと氣になったのでは、ある銀行の寝てしまった私の通帳を解約しようと思って電話しても繋がらない。考えてみるとカードも同じで、入会したい時には電話やパソコンは入会専用なのですぐ繋がりますが、カードの年会費を減らす方向に切り替えようと思い、その専用電話に幾らかけても、こちらも繋がらない。良く出来たものです。

お金儲けをしようとしている所は、あの手この手で、大手を広げて待ち構えています、減らす所には物凄く狭い門にしていると云うのを感じます。

このように昨日今日の新聞を読んでいると、指摘する記事がいくつも出て来ます。今、新聞の中で申し上げたのは雑知識です。

・知識

今の新聞を知識からの観点でみていきますと、大学の話や、日本の国はどんどん悪くなっていると云うものばかりを載せている。それは何故か…マスコミが偏向しているからだと感じます。

おかしい問題、悪い話をマスコミは喜んで載せ、人が聞いて喜ぶ話、希望を持つ話のごくわずかししか載せない。そのような新聞、テレビ等の報道姿勢があるというのがここら辺から見えて来ます。

・見識

知識でその様なものを取り入れたら、見識ではどう考えるか、またそういう知識を踏まえて日本の国はどうあるべきか、個人はどうあるべきか、そこでも考えて自分なりの判断基準こうあるべきだと思う部分が見識になります。

・胆識

胆識は、見識に実行力を伴ったものを胆識といいますので、実行力を伴っていないと、今申し上げたものは全て消えてしまいます。

色々な良い知識を持っていても、こうすべきだという見識がなければ役には立ちません。尚且つ自分が実行力を持って実行してゆく…そこまでいけば人間しめたものです。

・判断基準

見識の部分になりますが、これからの人生、どのようなお客様を選ぶかという時に、お客様を選ぶ判断基準がいろいろあります。

判断基準は、天下りが沢山いるのは駄目です。

軟弱な社長がいるのも駄目です。軟弱というのは、自分だけ儲ければいいという考え方もつ社長が経営をしている。

経営理念や基本哲学をしっかりと持っている、嘘をつかない社長。そのような社長がいる所は良いという様な判断基準を自分でお持ちになって下さい。

縁（えにし）から学ぶ社会

このような判断基準をお話するのは、私の大学時代の同級生の御子息が、今回初めて中斎塾フォーラムに参加されたビジターさんの為でもあります。

人脈という言葉もありますが、縁（えにし）という言い方もあります。縁（えにし）は、地縁、血縁、学縁に繋がります。

社会に出て独立をした。さてこれからどのような人と付き合うか、その選択によって自分の人生が変わります。

悪さばかりしている人達と付き合っていると、悪い方向に染まっていきますから、なるべく良い人達と縁を繋げる。その縁に繋がると、学縁にも繋がっていきます。

縁というのは、その縁によって「お尋ねしました」というと、大概おろそかには扱いません

一度、縁の繋がった人をよく見定めて、お客様を選んでゆくとよいでしょう。世の為、人の為になるような仕事をしている人達とお付き合いするのが良いと思って下さい。